



〇〇中学校 第1学年

社 会 科 通 信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.36

飛鳥時代の都はいくつあるだろう？

(校外学習のための参考資料)

遷都の歴史						
※ この年表は、中学校の歴史教科書に登場する天皇を中心にまとめたものである。そのため、欽明天皇以前の都については示していない。						
区分時代	元号	西暦	日付	よみがな 都名	天皇	所在地
古墳時代	欽明1年	540年	7月14日	しきしまのかなさしのみや 磯城島金刺宮(師木島大宮)	欽明天皇	奈良県桜井市
	敏達1年	572年	4月3日	くだらおいのみや 百済大井宮	敏達天皇	不明(奈良県? 大阪府?)
	敏達4年	575年	?	おさだのさきたまのみや 訳語田幸玉宮	敏達天皇	奈良県桜井市
	敏達14年	585年	9月5日	いわれいけのべのみみつきのみや 磐余池辺双槻宮	敏達天皇	奈良県桜井市
	用明2年	587年	8月2日	くらはしのしばがきのみや 倉梯柴垣宮(倉梯宮・倉梯柴垣宮)	崇峻天皇	奈良県桜井市
飛鳥時代	崇峻5年	592年	12月8日	あすかのとゆらのみや 飛鳥豊浦宮	推古天皇	奈良県高市郡明日香村
	推古11年	603年	10月4日	おはりだのみや 小墾田宮(小治田宮)	推古天皇	奈良県高市郡明日香村
	舒明2年	630年	10月12日	あすかおかもとのみや 飛鳥岡本宮	舒明天皇	奈良県高市郡明日香村
	舒明8年	636年	6月	たなかのみや 田中宮	舒明天皇	奈良県橿原(かしはら)市
	舒明12年	640年	4月	うまやさかのみや 殿坂宮	舒明天皇	奈良県橿原市
	舒明12年	640年	10月	くだらのみや 百済宮	舒明天皇	奈良県北葛城郡広陵町
	皇極1年	642年	12月21日	おはりだのみや 小墾田宮(小治田宮)	皇極天皇	奈良県高市郡明日香村
	皇極2年	643年	4月	あすかいたぶきのみや 飛鳥板蓋宮	皇極天皇	奈良県高市郡明日香村
	大化1年	645年	12月9日	なにわのなからのとよさきのみや 難波長柄豊碕宮(難波宮)	孝德天皇	大阪府大阪市中央区
	斉明1年	655年	1月3日	あすかいたぶきのみや 飛鳥板蓋宮	斉明天皇	奈良県高市郡明日香村
	斉明1年	655年	冬	あすかのかわはらのみや 飛鳥川原宮	斉明天皇	奈良県高市郡明日香村
	斉明2年	656年	?	のちのあすかのおかもとのみや 後飛鳥岡本宮	斉明天皇	奈良県高市郡明日香村
	斉明7年	661年	5月9日	あさくらのかたばなのひろにわのみや 朝倉橋広庭宮(朝倉宮・広庭宮)	斉明天皇	不明(福岡県福岡市博多か)
	斉明7年	661年	7月24日	ながつのみや 長津宮	斉明天皇	不明(福岡県福岡市博多か)
	天智6年	667年	3月19日	おうみおおつのみや 近江大津宮	天智天皇	滋賀県大津市
	天武1年	672年	冬	あすかのきよみはらのみや 飛鳥浄御原宮	天武天皇	奈良県高市郡明日香村
	持統8年	694年	12月6日	ふじわらきょう 藤原京	持統天皇	奈良県橿原市
奈良時代	和銅3年	710年	3月10日	へいじょうきょう/へいぜいきょう 平城京	元明天皇	奈良県奈良市
	天平12年	740年	12月15日	くにきょう 恭仁京(大業徳恭仁大宮)	聖武天皇	京都府木津川市
	天平16年	744年	2月26日	なにわきょう 難波京	聖武天皇	大阪府大阪市
	天平17年	745年	1月	しがらきのみや 紫雲楽宮(甲賀宮)	聖武天皇	滋賀県甲賀市
	天平17年	745年	5月11日	へいじょうきょう/へいぜいきょう 平城京	聖武天皇	奈良県奈良市
	天平宝字5年	761年	10月13日	ほらのみや 保良宮(保良京)	淳仁天皇	滋賀県大津市
	天平宝字6年	762年	5月23日	へいじょうきょう/へいぜいきょう 平城京	淳仁天皇	奈良県奈良市
	延暦3年	784年	11月11日	ながおかきょう 長岡京	桓武天皇	京都府向日市
平安時代	延暦13年	794年	10月22日	へいあんきょう 平安京	桓武天皇	京都府京都市
	治承4年	1180年	6月2日	ふくはらきょう 福原京	安徳天皇	兵庫県神戸市
	治承4年	1180年	11月26日	へいあんきょう 平安京	安徳天皇	京都府京都市
	明治1年	1868年	10月13日	とうきょう 東京	明治天皇	東京都

※ 「都」を「宮(皇居・天皇の住む所)のある所」とした。ただし、史跡が確認されていない宮もある。

飛鳥時代の都(皇居)で少し詳しく知っておきたい「都」

小墾田宮(小治田宮)おはりだのみや ^{すいこ}推古天皇と^{こうぎょく}皇極天皇の皇居。

『日本書紀』によると、豊浦宮(とゆらのみや)に即位した推古天皇は、603年(推古天皇11)小墾田宮に移り、^{ほうぎょ}崩御(天皇が亡くなること)するまでの25年間ここに宮室を営んだ。推古天皇は聖徳太子、蘇我馬子(そがのうまこ)とともに、冠位十二階の制定、十七条の憲法、遣隋使(けんずいし)の^{はけん}派遣、天皇記・国記の編纂(へんさん)などの諸改革をここで行った。

飛鳥板蓋宮あすかいたぶきのみや ^{こうぎょく}皇極天皇と^{さいめい}斉明天皇の皇居。655年焼失。

『日本書紀』によれば、皇極天皇は643年(皇極天皇2)4月、小墾田宮(おはりだのみや)より飛鳥板蓋宮(あすかいたぶきのみや)に移った。645年(大化1)6月、飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿(そがのいるか)が中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)らによって^{あんさつ}暗殺された事件(「乙巳(いっし)の変」という)^{ほったん}が発端となって、いわゆる「大化改新」が始まった。同年12月難波(なにわ)に^{せん}遷都(都を移すこと)し、652年(白雉3)長柄豊碕宮(ながらとよさきのみや)が完成したが、654年孝徳(こうとく)天皇が^{ほうぎょ}崩御すると、皇極上皇は板蓋宮で重祚(ちょうそ。いったん位を退いた天皇が、^{ふたたび}再び位に即くこと)して斉明天皇となった。天皇は小墾田に瓦葺(かわらぶ)きの宮殿を造営しようとしてならず、板蓋宮もこの年の冬火災にあったので、飛鳥川原宮に移った。

近江大津宮おうみおおつのみや 天智(てんじ)天皇の宮室。近江宮、大津宮、さらに近江京ともよぶ。天智天皇は即位前年の667年(天智天皇6)3月に遷都したが、671年崩御、翌年の壬申(じんしん)の乱で近江朝が敗北したためこの都は^{はいせつ}廃絶した。飛鳥(あすか)を離れて琵琶湖畔に退いたのは、新羅と唐の連合軍に、百濟(くだら)と共に戦った「^{はくすき}白村江の戦い」の敗戦に伴う国防上の理由からであろうと言われる。

藤原京ふじわらきょう ^{じとう}持統天皇が694年に飛鳥浄御原宮(あすかきよみはらのみや)から移り、文武天皇を経て、元明天皇が710年に平城京に移るまでの都。日本古代で中国的な^{じょうほうせい}条坊制を採用したことの明らかな最初の本格的な都城。